

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

●担当エリアは昔からの地縁のつながりがあるエリアと住宅地として一斉開発されたエリアが混在しています。どのエリアも地域活動の担い手不足は継続的な課題なので担い手の発掘につながるような事業を実施します。
●年々高齢化率は上昇していますが介護保険認定率は伸びていません。元気な高齢者が多いエリアと言えます。介護予防事業を積極的に展開し、健康寿命を延ばすような取り組みを実施します。
●これまで実施してきた地域活動が担い手の負担を考慮して変更されてきています。自治会を法人化するような動きもみられます。新しい地域活動のあり方を地域の方と模索していきます。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
☐	☒	・マンションでの高齢者の困りごとについて引き続き地域ケア会議で検討していきます
☐	☒	・要支援者などが地域のサロンに参加できるように、サロン交流会などを実施し、地域活動グループの後方支援を実施します。
☐	☒	・地域活動担い手づくり講座「しんばし未来研究所」では、イベント企画を実施するメンバーを募集することで事業の企画運営に興味がある人材発掘につなげます。
☐	☒	・障害事業所連絡会やエリア内高齢者福祉施設ネットワーク会議を実施することで 地域と福祉事業所をつなげることに取り組みます
☐	☐	

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

地域活動の担い手不足は継続課題としてずっと取り組んでいますが、「しんばし未来研究所」の取り組みや広報誌やスマホ講座のボランティア募集の活動を通して「地域活動に興味がある方」は確実にいると実感しています。興味ある方が参加しやすい様に時間や内容を調整する配慮があれば新しい形の地縁が広がるのではないかと考えます。個別支援に関しては認知症で一人暮らしの方の支援が増えました。介護保険サービスに結びつかない方を近隣の方との協力体制でゆるやかな見守りを実現するために地域ケア会議などがより重要になってくると感じています。

☐ 区からのコメント

・地域ケア会議では、昨年度に引き続き、集合住宅での高齢者の生活上の課題をテーマに開催し、課題解決へ向け、地域や関係者間共で課題の共有・検討を進め、地域・関係者間の連携も深めていただきました。加えて、地域のゆるやかな見守りの実現に向け、地域ケア会議がより重要となるため、次年度も引き続き、地域ケア会議の積極的な開催をお願いします。
・要支援者等が地域のサロンに参加し続けられるよう、リハビリテーション専門職を講師に招き、エリア内で活動しているサロン交流会を開催していただきました。高齢者がいつまでも地域のサロン等に参加し続けられる後方支援を引き続きお願いします。
・しんばし未来研究所での担い手発掘や、スマホ講座での学生ボランティアの活躍等、地域活動の担い手不足に対する取組を行っています。また、ケアプラザでのボランティアから地域活動に興味を持った学生を、地域活動に繋げるよう支援も行っています。次年度以降も、地域活動に興味がある方を地域活動に繋げるための取組をお願いします。